

当院にて胃癌の内視鏡治療を受けられた患者さんへ

東京大学医学部附属病院病理部では、当院を受診され、病理組織検体ないし細胞診検体を採取させていただいた方を対象に、標本を作製し、患者さんの病理診断を行っております。病理組織及び細胞診の標本は患者さんの病変のある部分から直接採取されるものであるため、画像検査や血液検査等の他の手段では得られない様々な情報を知ることができます。これらの情報を元に研究を行うことは、各種の疾病に対する知見を深める上で重要です。そのため当院病理部、及び東京大学大学院医学系研究科人体病理学教室では、胃癌の治療(内視鏡による治療)を受けられた患者さんのデータ及び標本を用いて以下のような研究を行っております。

【研究課題】

早期胃癌・前癌病変における遺伝子変異蓄積プロセスの解明、および病理像との関連解析

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学教室

研究責任者 人体病理学・病理診断学 教授 牛久哲男

担当業務 標本やデータの収集・匿名化・データ解析

【共同研究機関】

研究機関 東京大学医学部附属病院 消化器内科

研究責任者 助教 辻 陽介

担当業務 標本やデータの収集

研究機関 国立がん研究センター がんゲノミクス研究分野

研究責任者 分野長 柴田龍弘

担当業務 試料のゲノム解析

【研究期間】

2016年11月～2021年9月

【対象となる方】

2006年9月1日～2019年4月30日の間に当院で胃癌の内視鏡治療を受けられた方

【研究の意義と目的】

胃癌の早期病変に生じる遺伝子の体細胞変異は十分に解明されていません。本研究を通して胃癌の早期病変における変異蓄積プロセスを解明し、変異データ及び病理像の観察から胃癌発生の引き金となる重要なドライバー遺伝子を同定し、更にこれらの遺伝子を用いた発癌リスクの予測法開発につなげます。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。具体的には、臨床病情報(性別、年齢、病理診断のデータ等)、及び病理組織検体のパラフィン包埋ブロック、組織標本を対象とします。病理検体のパラフィン包埋ブロックから核酸(DNA及びRNA)を抽出し、癌細胞にどのような遺伝子変異が生じているか解析を行います。病理検体のパラフィン包埋ブロックから薄切されたサンプル及び抽出された核酸(DNA及

び RNA)は、遺伝子解析のため、共同研究機関である国立がん研究センターがんゲノミクス研究分野に提供(送付)される場合があります。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの人体試料や情報・データ等は、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において牛久哲男(管理責任者)が、パスワードロックをかけたパソコン、鍵のかかるロッカー等で厳重に保管します。また共同研究機関の国立がん研究センターに送付する場合においても、試料や情報・データ等は、送付前にどなたのものか分からないようにします。ただし、必要な場合には、本学の個人識別情報匿名化室においてこの符号を元の氏名等に戻す操作を行い、結果をあなたにお知らせすることもできます。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局までご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式にして学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

この研究に関する費用は、東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学教室の運営費交付金、及び日本学術振興会科学研究費補助金から支出されています。

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません。

【問い合わせ先】

東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学 牛久哲男(研究責任者)

東京都文京区本郷7-3-1

Tel: 03-5841-3343 Fax: 03-3815-8379

2019年5月1日